

令和6年度 立川市立立川第八中学校 学力調査等の分析

1 令和6年度全国学力・学習状況調査

教科	分析結果（生徒の実態や課題等）
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○全国の平均正答率は58.1%、東京都は61%、本校は62%と他の平均に比べるとやや高い結果となった。 ○物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものと適切なものを選択するという問題の全国正答率は81.4%、東京都83.7%に対して本校は88.9%と高い結果であった。 ○本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択するという問題の正答率は全国64.5%、東京都67.1%に対して本校は52.4%と低い結果となった。 ○短歌に関する問題や行書に関する知識の問題は全国、東京都の平均と比べて本校は低い結果であった。 ○以上のことから文を正しく理解し、文脈から類推して答えを導き出すこと、古典や書写における知識量に課題があるといえる。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○全体を通しての全国の平均正答率は52.5%、東京都は57%で、本校は62%であった。 ○学習指導要領の領域別に正答率をみると、 <ul style="list-style-type: none"> 「数と式」では全国正答率は51.1%、東京都は56.2%で、本校は65.1% 「図形」では全国正答率は40.3%、東京都は46.5%で、本校は48.7% 「関数」では全国正答率は60.7%、東京都は63.5%で、本校は65.1% 「データの活用」では全国正答率は55.5%、東京都は59.1%で、本校は65.9%であった。 ○思考力・判断力・表現力等を問う問題も知識及び技能を問う問題も、正答率はどちらも東京都や全国より高い。 ○昨年度、一昨年度に取り組んできた校内研究「学力調査の結果を生かした学力向上のための授業改善」の成果もあると考えられる。

2 令和6年度「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動・習慣等調査」

教科	分析結果（生徒の実態や課題等）
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生で全国平均を上回っていたのが、握力・立ち幅跳び、全国平均を下回っていたのが、50m走・持久走であった。2年生で全国平均を上回っていたのが、握力・立ち幅跳び・反復横跳び。全国平均を下回っていたのが、50m走・持久走であった。3年生で全国平均を上回っていたのが、握力・上体起こし・長座体前屈・反復横跳び・立ち幅跳び、全国平均を下回っていたのが、50m走・持久走であった。 ○以上のことから、全校的に筋力や瞬発力といった短時間での力発揮は得意な傾向にあるが、走力や全身持久力に課題があることが分かった。また、男女別にみるとハンドボール投げについても課題が見られ、全身を運動させ、効率よく体を動かすことにも課題があると考えられる。 ○生活・運動・習慣等調査では、運動やスポーツに好意的である生徒が80%以上となり、体を動かすことが好きな生徒が多い一方で、自ら進んで運動やスポーツに取り組んでいると回答した生徒は50%程度にとどまっていた。 ○以上のことから、生徒の運動やスポーツへの興味・関心を行動につなげられるような環境を整えたり、活動を企画・提案したりすることが必要なのではないかと考えられる。

3 東京ベーシック・ドリル

教科	分析結果（生徒の実態や課題等）
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○1年：平均正答率は46.4%であった。小学校学習指導要領（平成29年告示）の領域別にみると「A数と計算」では正答の割合が比較的高く、「B図形」、「C変化と関係」、「Dデータの活用」では正答の割合が低いので、これらの分野を伸ばすことが今後の課題である。 ○2年：平均正答率は54.1%であった。6割以上の生徒が正答率50%以上であることや、正答率が0または1の生徒が減少したことから、習熟度別少人数授業を行っている成果が表れている。「Dデータの活用」に関して、ヒストグラムから代表値を読み取ることに課題がある。

4 定期テスト

教科	分析結果（生徒の実態や課題等）
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○定期テストでは漢字の読み書き問題の正答率が極めて高かった。また、基礎的な文法問題、接続詞を文脈から類推し、適切なものを選ぶ問題等も高い正答率であった。一方、比喻表現が表す意味を詩の内容から考え説明する問題などの正答率は低かった。このことから本文、文章構成を理解したうえで、自分の語彙で説明する問題など「書いて表現する」ことに課題が見られる。 ○詩や説明的文章の内容を正しく理解し、記号で答える問題の正答率は極めて高かった。一方、古典に関する知識の問題や問題文の問われている内容を理解し、説明する問題の正答率は低かった。このことから、問われていることを整理し、自らの言葉で書いて説明することに課題があると感じられる。 ○歴史的仮名遣いなど古典に関する内容や、文章での適切な漢字の使用など、知識の定着に課題が見られる。 ○思考を必要とする課題に、取り組む前に諦めてしまう。粘り強く考えようとする姿勢に課題が見られる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○定期テストに向けた学習では、意欲的に取り組み、用語を覚えて答えることは概ねできる。知識を基に、思考し、文章化して表現する問題には若干苦手意識がある。 ○知識を問う問題では、多くの生徒が重要語句を覚え、正答率は高くなっている。資料から読み取れることを表現したり、事象の背景を説明したりする問題の正答率は若干低くなっている。 ○単元の基礎的な知識等が定着していない生徒も若干名おり、知識定着の二極化が課題である。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○1年：基本的な計算や技能は身に付いている生徒が多い。一方で、思考・判断・表現を問われる問題の正答率は、習熟度別授業のクラスによって、正答率や無回答率に大きく差がある。下位クラスでも習熟度に応じた学習内容の定着が課題である。 ○2年：基本的な計算の能力は身に付いている生徒が多い。一方で、思考・判断・表現を問われる問題の正答率に、大きく差がある。習熟度に応じて、既習の学習内容を踏まえて、思考力・判断力・表現力を身に付けさせることが課題である。 ○3年：基本的な計算力は身に付いている生徒が多い。一方で、思考・判断・表現を問われる問題の正答率は、習熟度別授業のクラスによって、正答率や無回答率に大きく差がある。習熟度に応じた学習内容を踏まえた上で、学習内容を発展させたり活用したりすることが課題である。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○1年：学習に対する意欲がある。授業中の取組も意欲的である。知識・技能、思考・判断・表現ともに6割程度の正答率である。この状況を維持するために小テストやレポートを適切に行い、学習状況の安定を図る。 ○2年：授業中の学習に対する意欲はあるが、家庭学習による復習などはあまりしていないので、知識・技能の正答率は5割、思考・判断・表現を問う問題はさらに正答率が下がっていた。授業中に知識を確認する小テストなどを増やし、基礎的な内容の定着をはかりたい。 ○3年：学習に対する意欲があり、知識・技能を問う問題はよくできていた。思考・判断・表現を問う問題については難易度を上げたこともあり、出来・不出来の差が大きく開いてしまった。思考力・判断力・表現力の全体の底上げをするよう、さらに普段の授業で取り組むことが課題である。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱など実技を伴った活動についての解答は、多くの生徒が正解している。その一方で、鑑賞教材、楽典、簡単なリズム創作などは、テスト前の取り組み方によって差が生じている。 ○授業で積極的に表現活動ができるようになると、定期テストに対しても意欲的に行えるようになるという傾向が見られる。 ○授業でのグループワークなどを通して、生徒同士で意見を共有し、全体の底上げを図る。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○思考力を問う記述問題に対しては、苦手とする傾向が見られるが、正解ではなくとも自分なりに苦心して答えようとする粘りも見られた。また、知識を問う問題については、誤字が頻繁に見られるため、授業での丁寧な確認が必要である。 ○鑑賞に関する能力を高めるために、作品を互いに鑑賞する機会を多く設定する。
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> ○知識を問う問題では、記号問題の正答率が高いものの記述式の問題は正答率が低い傾向だった。技術の名称等について授業で聞くことのあるものの書いたり発言したりする機会が少ないため、記述の苦手な生徒がいると考えられる。授業の中で発問し、生徒が発言する機会を増やすなど授業改善が必要である。 ○思考・判断・表現の問いては、昨年度に比べ、しっかりと自分の考えたことや授業で説明したことを書ける生徒が増加した。引き続き、毎時間の学習カードに取り組んでいく。 ○主体的に学習に取り組む態度を問う問題では、正答率に二極化が見られた。毎時間の授業のまとめや個人の振り返りの時間を増やし、自己の考えをまとめる機会を増やしていく必要があると考えられる。
技術 家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○2、3年生は、基本的な事柄について理解できている生徒が多かった。 ○1年生は初めてだったからか定期テスト対策ができていない生徒が多かった。 ○思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の記述式の問題はよく考えしっかり答えられている生徒が多かった。 ○授業での真面目な取組が得点に結びついていない生徒が多いので、テスト前にポイントの説明を行う等をして知識や技能の定着を図る。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○定期テストでは「聞くこと」の正答率がとても高かった。また、選択肢の中から正しい綴りを選ぶ問題では、正答を選ぶことができる生徒が多かった。一方、肯定文を疑問文や否定文に書き換える問題など「書くこと」に関する問題は正答率が下がった。同じ問いを口頭で問う「話すこと」のテストでは、正しく答えられたため、正しい綴りを用いて解答することに課題があると考えられる。 ○「聞くこと」「読むこと」に関する問題の正答率が62%なのにに対し、「書くこと」に関する問題の正答率は38%と低く留まった。また単語を並べ替える問題や、単語を正確に記入する問題の正答率も50%以下であった。以上のことから、生徒は英語で話されたことや書かれたことを理解することは得意としているが、自分の考えを正確な語順、正確な綴りを用いて表現することに課題があると考えられる。 ○「聞くこと」については、リスニング中にメモを取ることで内容を整理し、理解する力が付いてきた。短縮形や熟語を習得することで、消える音、つながる音にも対応していけると考える。「書くこと」については、特に長い単語の綴りの更なる定着が求められる。類義語や反意語等と結びつけて語彙を増やしていくことも必要だと考える。「読むこと」については時間を意識して、長文にも少しずつ対応できるようになっているが、速読や概要理解などについては未だ課題が見られる。